団　体　名	にのみやこども食堂便
事 業 名 称	にのみやこども食堂便
補 助 金 額	５０，０００円
現 場 確 認 日	令和２年５月２７日（水）
出 席 委 員	豊田委員

事業の概要

新型コロナウイルス感染症対策で、学校が休校となった町内小中学校の児童・生徒がいる世帯に希望を取り、自宅へ弁当を届ける。

フードバンクや町内事業者と連携を図り、安価で栄養バランスの取れた弁当を提供する。

現場確認の内容

視察の日は 48 食の注文があり、町内事業者から団体事務所に届けられた弁当を 4 つの配達ルートに分配する作業を確認し、ルートの 1 つに随行した。

配達員は１軒１軒ただ弁当を配達するだけでなく、保護者に子どもの様子を聞くなどしていた。

弁当は一部フードバンクを介して得た食材を使用して町内事業者が調理し、本団体が配達しており、内容については子どもからも好評であった。

出席委員のコメント

・子ども食堂や配食事業に携わってきた会員がノウハウと経験を生かし、学校給食に代わる「食」を子どもたちへ直接届けました。既存の団体や町民有志が資源と力を持ち寄り、即応的に新しい取り組みを実施できることを示した好事例だと思います。

・行政、町内の事業者と野菜生産者９軒、フードバンクなど多方面と連携し、町民活動推進補助金と公益財団の市民基金の助成金も活用していて、団体の活動に心強さを感じました。農家を団体に紹介した人や民生委員児童委員、配達ボランティアなどの協力があったそうで、人の繋がり、ネットワークが地域に築かれていると感じました。

・学校を通じたチラシの配布で周知を図り、すべての児童生徒を対象にしたことは良かったです。お弁当を調理する業者が食中毒の防止に最も注意を払っていること、学校給食の献立を参考に栄養バランスの取れたメニューを作っていることに安心しました。配達に行くと、急いで玄関に出てくる子もいるそうで、子どもたちがお弁当をおいしく食べている様子が伺えました。一方、1 食 200 円という低価格でも生活に困難を抱えている家庭や、お弁当を注文してもらえずに食事を抜く子どもがいないか気になりました。

・団体が今後の計画としている「強いニーズ」に繋がる食の支援、二宮町内でのフードバンク活動などへ発展することを期待します。

団　体　名	人生わくわく船
事 業 名 称	寺子屋
補 助 金 額	１７２，８００円
現場確認日	令和２年９月２１日（月）
出 席 委 員	伊達委員、小林委員

事業の概要

二宮住民、子供から高齢者、障害者、不登校の方々などすべての住民の方を対象に、お互い顔の見える関係づくりを行い、地域住民の方々の健康維持増進のため、わくわくする内容の「寺子屋」活動を行う。

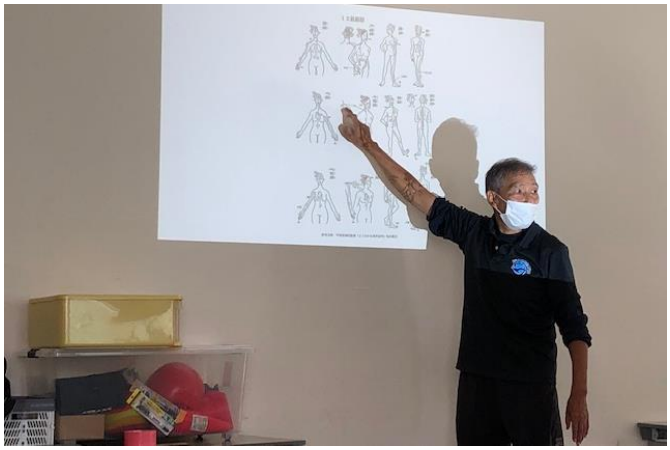
現場確認の内容

・健康講話「災害で役立つこと」
　鍼灸マッサージ師として、実際に災害現場である避難所支援の派遣ボランティアで経験した際の体験談をプロジェクター映像とともに話した。
・ゼンシン体操
　避難所生活でも行える健康維持のための体操と「元気の出る歌の集い」による「二宮永遠に」の歌に合わせての体操を行った。
・避難所運営ゲーム（HUG）体験
　災害時に避難所に来た人たちをどのように収容したら安全で問題が発生しないかをシュミレーションした。

出席委員のコメント

・現実に被災者となった時の、なまなましい体験談が話され、参加者からは「日頃の防災体制づくりの必要性」「日頃から近隣の人たちとの情報共有などの重要性」を考えさせられ、ためになったとの感想が聞かれた。
・避難所運営ゲームでは、現実の二宮の避難所をモデルにすることで、町の防災体制、住民組織の任務などを具体的に想定し状況設定すれば、より身近に理解が深まったと思う。
・コロナ禍「密」の関係で参加者数が絞られてしまったが、この種の取り組みができることが望ましい。
・イベントの構成は、非常にスムーズで参加者にも興味関心を促し飽きさせない工夫をしていた。短時間であったが、非常に濃い内容であった。
・二宮町における各団体の横の連携を増やすことが課題である。特に、町民活動推進補助金を受けた団体は、横の連携をさらに強化すべきと感じた。
・次世代に繋がる若い世代への啓発活動は急務と感じた。
・災害に対する備えとして「避難所運営ゲーム HUG」は学校教育にも取り入れると良いと感じた。

団　体　名	人生わくわく船
事 業 名 称	寺子屋
補 助 金 額	１７２，８００円
現 場 確 認 日	令和２年１０月２０日（火）
出 席 委 員	志賀委員



事業の概要

二宮住民、子供から高齢者、障害者、不登校の方々などすべての住民の方を対象に、お互い顔の見える関係づくりを行い、地域住民の方々の健康維持増進のため、わくわくする内容の「寺子屋」活動を行う。

現場確認の内容

・健康講話「東洋医学で腰・肩の痛みの対処法」
・ゼンシン体操
　「元気の出る歌の集い」による「二宮永遠に」
・ボッチャ体験

出席委員のコメント

・参加者の方々が、楽しそうに取り組んでいたのが印象的であった。

・講義の内容は、日々の生活に直結するものであり、自分でも取り組んでみようと思わせるものであった。

・「元気が出る歌の集い」の方々とご一緒に活動されていたようであり、町民活動の広がりという視点で可能性を感じた。

・運動を続けていくことが最も重要だと思うので、講義形式の現在の活動には限界も感じる。続けてもらうための工夫があると良い。

団　体　名	にのみや子ども応援隊
事 業 名 称	発達サポーター育成講座・基礎講座 in にのみや
補 助 金 額	２００，０００円
現 場 確 認 日	令和２年１１月１４日（土）
出 席 委 員	岡本委員、大河原委員

事業の概要

家庭や保育、教育の現場で子ども達の発達を巡る課題が多く存在している。そこで子どもの発達の特性やサポートの方法を学び、町内に子どもの理解者や支援者の輪を広げ、スキルを活かすサポーターを育成することを目的とする。

現場確認の内容

星山麻木講師（明星大学教育学部教授）による発達サポーター取得対象の講座。年７回の講座の内、６回受講すると、資格の申請ができる。

出席委員のコメント

・発達の障がいには「理解し支援する」。この言葉をキーワードとして、二宮町に多くの理解者の輪が広がる事が必要だと感じました。
・コロナが流行している状況での講座の為、室内ではなく野外の開催でした。心地よい環境もあり、参加されている方々の評判も良いものでした。
・今回は感覚特性の理解というテーマの受講でしたが、講師の方の説明も分かりやすく、大変勉強になる内容でした。
・６回受講した方に対して「発達サポーター」の資格申請なども有り、参加意識を高める工夫など団体運営の基盤がしっかりしている印象を受けました。
・活動に賛同する方も多いと思いますので、運営資金も補助金のみではなく、企業協賛やクラウドファンディング等も検討し、継続的な運営の基盤を作り、より多くの方に広めていただければと思います。

団　体　名	農ある暮らしを広める会
事 業 名 称	次世代に受け継ぐ次期リーダーの育成
補 助 金 額	２００，０００円
現 場 確 認 日	令和２年１１月２９日（日）
出 席 委 員	男成委員、山岡委員

事業の概要

里山、遊休農地の再生による農ある暮らしの実践には未来を見据えた継続性が最も重要であり、次世代に受け継ぐ次期リーダーを育成する。

現場確認の内容

次世代に受け継ぐ次期リーダーに必要な企画運営能力と専門的知識（自然稲作、育苗種採り、自給自足）を身につける。

出席委員のコメント

・農地の区割り等は、他に比べてやや狭いが近隣の貸し農園と類似しており、会費もそれとほぼ同等に感じました。違いは、自然農法の栽培指導に有るのであろうと感じました。
・会の目的とされている「次世代に受け継ぐ次期リーダーの育成」の成果については確認出来ませんでしたが、今後の検証が望まれます。
・参加者からは「以前から農業に興味があり、ようやく希望が叶い楽しんでいる。」「自然農法を勉強したいと思っている。」「可能ならもう少し広い区画を利用出来ればうれしい。」といった声が聞けました。
・メンバーの多くは二宮に移住された若いご夫婦や親子とのことで、移住者のニーズにも合致した活動で、移住支援・促進、耕作放棄地解消、環境保全等地域課題の解決につながる意義のある活動だと感じました。
・課題は人材育成とのことでしたが、補助金を得たことにより研修に参加できたり、栽培マニュアルを作成できたりと補助金が事業の推進に寄与できていることはうれしいことです。公共的な性質の強い事業であり、かつ農地の貸借や移住促進等町の協力が不可欠な要素もあり、今後は町とも連携して活動を普及・継続していただきたいと思います。

団　体　名	農ある暮らしを広める会
事 業 名 称	次世代に受け継ぐ次期リーダーの育成
補 助 金 額	２００，０００円
現 場 確 認 日	令和２年１２月１３日（日）
出 席 委 員	手塚委員長

事業の概要

里山、遊休農地の再生による農ある暮らしの実践には未来を見据えた継続性が最も重要であり、次世代に受け継ぐ次期リーダーを育成する。

事業の概要

現場確認当日は堆肥づくりを行った。もみ殻、米ぬかに参加者が集めてきた落ち葉、それに畑に隣接する山から採取した土といった、自然のものだけを利用していた。

参加者が家庭でも行える内容であり、質問が多く熱心な姿勢が窺えた。

出席委員のコメント

・現場は山のふもとの畑で、荒れていた場所を開墾して、整備した様子も見受けられる場所でした。
・代表の経験と知識を、体を使って伝える姿にメンバーが楽しそうに動いていたことは印象的でした。
・行動優先の代表に、事務局や広報担当のメンバーもいらっしゃって、活動の継続性は担保できているように感じました。